



西日本チャレンジロード(A-E)

シクリスムエコーNo.137 2007年3月号



トラック・ワールドカップ第3戦ロサンゼルス…………… 2



トラック・ワールドカップ第4戦マンチェスター…………… 3



2007 シクロクロス世界選手権 …………… 4
2006-2007 JCFシクロクロス ランキング …………… 5
西日本チャレンジロードレース …………… 6
JCF 競技規則集 改訂事項一覧表(抜粋) …………… 7

学連明治神宮外苑自転車クリテリウム大会 …………… 11
オーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバル …… 12
競技大会結果 …………… 14
トラック世界選手権日本代表選手団 …………… 14
インフォメーション コーナー …………… 14
登録者のアンチドーピング検査規則に係る処分について・ 14
2007年UCIロード登録チーム …………… 15
広報委員会からのお知らせ …………… 16
2007年JCF競技規則集 完成! …………… 16
加盟団体事務局変更のお知らせ …………… 16
連盟の動き …………… 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。
<http://keirin.jp/>



トラック・ワールドカップ第3戦ロサンゼルス

～ 及川裕奨が1kmタイムトライアルで銅メダル獲得 ～



スタート練習をする及川とマニエ監督

ワールドカップ第3戦は1月19～21日にアメリカ・ロサンゼルスにおいて、49の国とチーム(男子190名、女子64名の計254名)のエントリーで開催された。日本は今大会からJCFナショナル・ディレクターに就任した前WCCトラックヘッドコーチのフレデリック・マニエ氏が監督となりチームの指揮をとった。

参加メンバーは成田和也、永井清史、及川裕奨、新田祐大のスプリント系。そして西谷泰治、盛一大の中距離陣である。今回の特徴は、イギリスを除き世界選の参加資格を獲得したチーム(国)は、若手選手にチャンスを与え、ボス(オランダ)、マクレーン(イギリス)、ニムケ(ドイツ)らの顔はない。

まずはケイリン一次予選、成田から始まった。監督の指示はイギリスのホイの後ろを取る、彼は先行しかないとの事。レースはスタートでホイの後ろを取り2着で二回戦へ。二回戦は外からスタート、有力な先行選手がいないのでペーサー退避のタイミングで前に、二番手、飛びつきを狙うが内のまま5着で7-12位決定戦へ回った。7-12位決定戦はキャッパ(イタリア)、クウィアコウスキー(ポーランド)、ヌグ(マレーシア)らだ。レースはペーサー退避で前にアメリカのマッシーの先行に飛び付き、まくるが外をキャッパらに交わされ4着となり10位が決定した。成田の走りは今までの日本の先行中心の走りからレースを作り二番手を取り、勝ちに行く新しい走りだ。

1kmTTは及川が1分04秒814のタイ

ムで3位となり銅メダルを獲得した。しかし、スタートから前半がまだ物足りない。本人も自覚してるので更に積極性を望む。

スクラッチ予選は30周7.5kmで行われ、昨年同大会3位の西谷が出場し積極的に仕掛け、逃げようとするも17位で予選通過ならず。監督は「チャンスは1回、むだ足を使わずそれに賭ける」とアドバイスした。結果は予選落ちだが間違いなく次に繋がる走りだった。

スプリント予選200mTTは成田10秒771で18位。永井は10秒682で14位予選通過。1位はイギリスのホイで10秒287だった。永井の1/8決勝はフランスのボジェと対戦し、先行し最高の仕掛けだったが追い込まれ9-12位決定戦Bへまわった。

1/4決勝Bはオーストラリアのパーキンスと対戦し、逃げ切り1/2決勝Bへ。1/2決勝Bの相手は中国レイ・ザンでこれも先行位置からダッシュに合わせ逃げ切った。決勝B(9-10位決定戦)の相手はイギリスのクランプトン。これもダッシュに合わせ逃げ切り勝ちで9位が決定した。彼は今回急遽参加が決定し、体調も不十分でありながら力を出し切ったレースだった。

ポイントレースは盛が予選で4人での逃げが成功し、3着となり決勝へ進出した。決勝は初めからハイペースで展開し、盛はスプリント、アタックとんでもこなし価値ある16位だった。常に前の集団で勝負し、見ていて楽しめる迫力あるレースを作った。今後の彼の課題が見えてきたと思う。

チームプリントは第1走:成田、第2走:新田、第3走:及川でタイムは46秒205で7位。対戦相手の中国に勝ちにはしたが、日本チームの弱点が出たレースだった。

マニエ監督は選手にも積極的に話しかけ、結果を否定せず、必ず褒めたたえるなど、次につながるアドバイスをを行った。彼は選手に自信を持たせ一回のチャンスに賭けるレースを教えようとしていた。我々スタッフも監督に質問すると否定せず、自信を持たせようとした答えが返ってきた。監督はまずは明るいチームを作り、これから日本の自転車界の流れを見極めそれから動こうとしているように思えた。

(コーチ:阿部 良二)

2006-2007 UCトラック・ワールドカップ クラシクス#3
(2007/1/19-21 アメリカ・ロサンゼルス)

男子スプリント

1 BAUGE Gregory	FRA
2 CHIAPPA Roberto	ITA
3 EDGAR Ross	SIS
9 永井 清史	JPN
18 成田 和也	JPN

男子1kmタイムトライアル

1 PERVIS Francois	FRA	1:02.255
2 BERGEMANN Carsten	GER	1:04.439
3 及川 裕奨	JPN	1:04.814

男子ケイリン

1 HOY Chris	GBR
2 EDGAR Ross	SIS
3 PERKINS Shane	AIS
10 成田 和也	JPN

男子チームスプリント

1 Great Britain	44.606
2 France	44.913
3 SCIENCEINSPORT.COM	44.725
7 日本 成田・新田・及川	46.205

男子スクラッチ

1 HAMPTON Russel	HPM
2 STROETINGA Wim	NED
3 PEREZ Walter	ARG
西谷 泰治	JPN 予選敗退

男子ポイントレース

1 MEYER Cameron	AUS	24p
2 NEWTON Christopher	GBR	20p
3 KOLESNIKOV Sergey	RUS	14p
16 盛 一大	JPN	-18p

KEIRIN
競輪補助事業

2006-2007 UCトラック・ワールドカップ
クラシクス#3 日本代表選手団

大会名 2006-2007 UCトラック
ワールドカップ・クラシクス#3

開催場所 アメリカ・ロサンゼルス

大会期間 2007年1月19日～21日

派遣期間 2007年1月13日～23日

代表選手団

監督 フレデリック・マニエ

(JCFナショナル・ディレクター)

コーチ 阿部 良二(JCF強化コーチ)

随員 兼松 薫(JPCAコーチ)

幼ニツク 森 昭雄(JCF強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史(JCF強化スタッフ)

通訳 渡邊 三郎(JCF強化スタッフ)

選手 成田 和也(JPCA・福島)

及川 裕奨(JPCA・岩手)

永井 清史(JPCA・岐阜)

新田 祐大(JPCA・福島)

西谷 泰治(愛知・愛三工業)

盛 一大(愛知・愛三工業)

トラック・ワールドカップ第4戦マンチェスター

インターナショナル・ケイリンも同時開催される

スプリント1/2Fの永井(左)と
今大会優勝のトゥルナン

'06-'07ワールドカップ最終戦は、イギリスのマンチェスターで2月23～25日に行われ、参加37カ国、249名の選手で争われた。

まずは23日の成田のケイリンから始まった。予選はパーキンス(オーストラリア)を警戒しスピードが緩んだら一気にダッシュすると監督のアドバイスもあり、まくり追い込みで1着。2回戦はマクレーン(イギリス)の後ろを取りに動いたが中国のタンにからまれ内に詰まり6着。7-12位決定戦はマクレーンの後ろを飛びつき2着、総合8位。

飯島はスクラッチに出場し、予選は10位で通過した。決勝は24人で争われ飯島は前半体力を温存し、後半からは積極的に仕掛け、ラップにも成功し5位に入賞した。これで世界選手権枠が一つ有力になった。

スプリント予選は永井が10秒365で9位、渡辺が10秒440で12位通過した。1/8決勝では永井がジェインソン・ケニー(イギリス)と対戦しすばらしい先行で逃げ切り1/4決勝に進んだ。今度の相手はザイデンベッヒャー(ドイツ)。彼はテオ・ポスの落車により勝ち進んできた選手だ。永井が1本目、先行で逃げ切った。2本目はバックまくりで快勝。1/2決勝はウルナン(フランス)と対戦するも敗れ3-4位決定戦に回った。ブルガン(フランス)に対してはよく善戦したものの、病み上がりの体は一杯ながら4位に健闘した。渡辺は1/8でフレンチ(オーストラリア)と対戦したがゴール寸前追い込まれた。敗者は9-12位予選回りとなり、渡辺はベイリー(オーストラリア)と戦い逃げ切ったものの、体力を出し切ってしまう残りの2戦を落とし12位となった。

ポイントレース予選は盛が9位で通過し決勝へ進出した。決勝では、前半はレースを見極め脚力温存に勤めた。中盤に入りポイントとラップに成功し、後半から更に攻めに転じ最終スプリントは3着通過し、総合

7位となり世界選手権枠がまた一つ有力になった。

チームスプリントは成田、渡辺、井上で挑んだ。相手はSIS(イギリス)しかし1回目はフライング、2回目はスタートに失敗し故意に落車しSISは失格した。その疲れも癒せないで3回目のスタート、45秒326のタイムで4位と0秒04差の5位であった。

インターナショナルケイリンは、太田、矢口、成田、渡辺、永井、井上の日本選手6名が予選通過ならず、敗者復活戦回りとなった。敗者復活戦で成田、矢口、永井の3人が勝ち上がり2次予選に進んだ。すべて抽選で決まる予選は何と3人が一緒にレースになった。このレースは永井、成田、矢口の並びで始まった。エドガー(イギリス)、ムルダー(オランダ)の上昇に合わせ永井が先行したものの交わされ、成田が3着に入り日本人としてただ一人決勝に勝ち進んだ。決勝はホイ(イギリス)の突っ張り先行で始まり、エドガーが終始ガードする展開となり、ホイが優勝し、2位にムルダー、3位にエドガーが入り、成田は5位だった。今回、マニエ・ナショナルディレクターが来日し2回目の采配でしたが、現在の脚力でどう戦うか興味があった。まずは気持ち、モチベーションを高める。これを一番大事に伝えていた。この基本の考えを、私たちは忘れていたのではなからうか。

(コーチ:阿部 良二)

[競技結果]

2006-2007 UCITラック・ワールドカップ クラシクス#4
(2007/2/23-25 ｲｷﾞﾘｽ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ)

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	TOURNANT Arnaud	FRA
2	HOY Chris	GBR
3	BOURGAIN Mickael	FRA
4	永井 清史	JPN
12	渡邊 一成	JPN

男子ケイリン

1	PERKINS Shane	AIS
2	TANG Qi	CHN
3	MAZQUIARAN URIA Hodei	ESP
8	成田 和也	JPN

男子チームｽﾌﾟﾘﾝﾄ

1	Great Britain	GBR	44.163
2	Germany	GER	45.149
3	South Australia. Com	AIS	45.172
5	日本 井上・成田・渡邊	JPN	45.326

男子スクラッチ

1	RATAJCZYK Rafal	POL
2	KLUGE Roger	GER
3	HUFF Charles Bradley	USA
5	飯島 誠	JPN

男子ﾊﾞｯﾄﾙｰｽ

1	KLIMOV Serguei	RUS	77p
2	TAMOURIDIS Ioannis	GRE	56p
3	CURUCHET Juan Esteban	ARG	50p
7	盛 一大	JPN	45p

2007 インターナショナル・ケイリン

(2007/2/25 ｲｷﾞﾘｽ・ﾏﾝﾁｪｽﾀｰ)

最終結果

1	HOY Chris	GBR
2	MULDER Teun	NED
3	EDGAR Ross	GBR
5	成田 和也	JPN
9	矢口啓一郎	JPN
10	永井 清史	JPN
	渡邊 一成	JPN 1回戦敗退
	太田 真一	JPN 1回戦敗退
	井上 昌己	JPN 1回戦敗退

KEIRIN
競輪補助事業2006-2007 UCITラック・ワールドカップ
クラシクス#4 日本代表選手団

大会名	2006-2007 UCITラック ワールドカップ・クラシクス#4
開催場所	イギリス・マンチェスター
大会期間	2007年2月23日～25日
派遣期間	2007年2月17日～27日
代表選手団	
監督	フレデリック・マニエ (JCFナショナル・ディレクター)
コーチ	阿部 良二(JCF強化コーチ) 福田 公生(JCF強化コーチ)
随員	柳井 襄志(JPCAコーチ)
メカニック	鬼原 積(JCF強化スタッフ)
マッサージ	石田 宗男(JCF強化スタッフ)
通訳	渡邊 三郎(JCF強化スタッフ)
総務	横田 恭(JCF選手強化部)
選手	井上 昌己(JPCA・長崎) 成田 和也(JPCA・福島) 渡邊 一成(JPCA・福島) 永井 清史(JPCA・岐阜) 飯島 誠(JPCA・プリヂストン) 盛 一大(愛知・愛三工業)

2007インターナショナル・ケイリン日本代表選手団

大会名	2007インターナショナル・ケイリン
大会期間	2007年2月25日
派遣期間	2007年2月20日～27日
代表選手団	
選手	太田 真一(JPCA・埼玉) 矢口啓一郎(JPCA・群馬) 井上 昌己(JPCA・長崎) 成田 和也(JPCA・福島) 渡邊 一成(JPCA・福島)

2007 シクロクロス世界選手権

辻浦・豊岡が熱い走りを!



シクロクロスの本場ベルギー。会場になった西部の街ホーフレーデ・ヒッツのコースは小さな丘を利用したもので、3ヶ所の階段と小刻みなアップダウンが特徴的。路面は試走時からかなり荒れており、歩くのも困難な場所もあるほど。

1週間前にオランダで開催されたワールドカップには日本代表チームから8選手が参戦し、国内とは違う泥コンディションを走ることで世界選手権のコースに照準を合わせることができた。

1月27日、はっきりしない天気の中、U23のレースがスタート。午前中のジュニアのレースで路面はさらに荒れてしまいました。竹之内、藤岡は中ほどの順位で周回を重ねたが、藤岡は中盤以降ペースダウン。期待された竹之内は後半調子が上がったものの大きく順位をあげることができず-1ラップの42位。藤岡、伊澤も周回遅れの結

果となった。大塚は残念ながら途中リタイア。

翌28日、午前中の女子のレースには2年連続国内チャンピオンの豊岡、オランダ在住で今期調子の良い荻島、そして志村、田近の4選手が出走。豊岡は序盤から中ほどの良い位置につけた。滑りやすく難しい路面にもかかわらず果敢に攻め25位でゴール。荻島も良いスタートを切れたが、思わぬ機材トラブルにより前半に大きく順位を落とすことになってしまった。志村、田

近は共に大きく遅れてしまったが、全選手とも無事完走を果たした。

午後は注目のエリート。地元ベルギー勢の必勝を願うサポーターが押し寄せ、会場は身動きもできないほど。スタート地点へサポートに行くのも一苦労。

2時30分、ヨーロッパの強豪に混じってスタート。5年連続日本チャンピオンに輝く辻浦は積極的な走りでも30位台中ほどをキープ。小坂、丸山もこれに続いた。

すでに3レースを終えたコースはさらに荒れ、強豪選手もコースのあちこちで落車を繰り返すほどの状況へと変化。そんな中、順位を上げ下げしながらも小集団で走る辻浦であったが、後半バンクもあり少しペースダウン。しかし後半踏ん張りトップと6分47秒差の35位でゴールした。また小坂、丸山も悪コンディションの中を果敢に攻め、周回遅れになりながらも51位、53位で無事完走を果たした。三船は序盤にシューズのトラブルで大きく遅れてしまい、残念ながら途中リタイア。

全体としては好成績を残せなかったが、辻浦、豊岡の熱い走りが印象的な大会であった。今回も世界戦前にヨーロッパでのレースを走ることができ良いコンディションで大会に望



女子の豊岡



男子エリートの辻浦

めたが、さらにヨーロッパでの経験を積む体制づくりが必要であろう。数年前、我々日本チームのレベルとあまり変わらない位置にいたアメリカは、今回エリートで表彰台に送り込むほどに成長した。日本チームも数年後に大きく飛躍できるような強化の必要性を感じる。最後に、今回の派遣に御理解、御協力をいただいた関係各位に感謝いたします。(澤田 雄一)



男子エリートの辻浦

[競技結果]

2007年シクロクロス世界選手権大会
(2007/1/27-28 ベルギー・ホフレデヒツ)

男子エリート (27km)

1	VERVECKEN Erwin	BEL	1:05.35.5
2	PAGE Jonathan	USA	1:05.38.2
3	FRANZOI Enrico	ITA	1:05.52.2
35	辻浦 圭一	JPN	1:12:22.7
51	小坂 正則	JPN	-1lap
53	丸山 厚	JPN	-1lap
	三船 雅彦	JPN	DNF

女子エリート (15km)

1	SALVETAT Maryline	FRA	42.57.8
2	COMPTON Katie	USA	42.59.0
3	LEBOUCHER Laurence	FRA	43.06.8
25	豊岡 英子	JPN	47.58.0
40	荻島 美香	JPN	50.41.7
41	志村みち子	JPN	51.57.8
42	田近 郁美	JPN	53.04.5

男子U23 (21km)

1	BOOM Lars	NED	53.53.4
---	-----------	-----	---------

2	ALBERT Niels	BEL	55.15.9
3	VILLA Romain	FRA	55.37.5
42	竹之内 悠	JPN	-1lap
51	藤岡 徹也	JPN	-1lap
56	伊澤 優大	JPN	-1lap
	大塚 航	JPN	DNF

ジュニア (15km)

1	ADAMS Joeri	BEL	41.18.0
2	SUMMERHILL Danny	USA	41.18.7
3	POLNICKY Jiri	CZE	41.19.3

KEIRIN
競輪補助事業

2006-2007 JCF
シクロクロス ランキング

ELITE MEN

1	辻浦 圭一	222p
2	小坂 正則	119p
3	丸山 厚	60p
4	山本 幸平	50p
5	竹之内 悠	40p
6	中間森太郎	25p
7	飯塚 隆文	20p
8	三船 雅彦	17p
9	堂城 賢	15p
10	大塚 航	10p
11	池本 真也	8p
12	白石 真悟	6p
13	入江 克典	4p
14	野口 忍	1p

ELITE WOMEN

1	豊岡 英子	209p
2	荻島 美香	106p
3	志村みち子	98p
4	田近 郁美	92p
5	酒井 真清	52p
6	狩俣けい子	34p
7	池田 桂子	8p
8	森 涼子	5p

日本航空

空で逢いましょう。



Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

第12回西日本チャレンジロードレース

“春を呼ぶレース”をマトリックス向川(エリート)が勝利!

[競技結果]

第12回西日本チャレンジサイクルロードレース
(2007/3/18 広島・中央森林公園)

A-E (61.5km)

- 1 向川 尚樹 マトリックス「ワータ」 1:34:38.29
- 2 細川 倫央 TeamNIPPO 1:34:42.82
- 3 増田 成幸 Team MIYATA 1:34:42.92
- 4 小室 雅成 Comrade-Giant 1:34:43.36
- 5 小嶋 洋介 Comrade-Giant 1:34:45.94
- 6 三船 雅彦 マトリックス「ワータ」 1:34:52.07

A-U (36.9km)

- 1 角 令央奈 鹿屋体育大学 56:00.20
- 2 竹之内 悠 Marco Polo 56:01.71
- 3 森山 大知 TeamNIPPO 56:01.81
- 4 石井 陽 立命館大学 56:01.83
- 5 鈴木 譲 Team MIYATA 56:01.97
- 6 伊勢 直人 マトリックス 56:02.04

A-J (36.9km)

- 1 大中 拓磨 北桑田高校 59:25.13
- 2 吉岡 恭兵 日出暘谷高校 59:26.72
- 3 大中 巧基 北桑田高校 59:26.80
- 4 魚屋 周成 日出暘谷高校 59:27.11
- 5 丸本 悠太 広島城北高校 59:27.86
- 6 廣浦 典也 上宮太子高校 59:28.07

A-M (36.9km)

- 1 松井 久 カガ「AS」 58:04.72
- 2 中田 尚志 TACURINO 1:00:11.94
- 3 酒井 紀章 BALBA R. 1:00:32.26
- 4 山口 忠行 1:00:58.32
- 5 有田 安伸 グラデ「バ」ル播磨 1:01:01.41
- 6 松本 哲 グラデ「バ」ル播磨 1:01:01.51

A-F (24.6km)

- 1 豊岡 英子 43:27.32
- 2 酒井 真清 Testach Racing 46:46.09
- 3 北野 寿枝 bicinoko.Com 48:42.19
- 4 内田菜穂子 関西大倉高校 48:44.46
- 5 玉井 千晶 高松工芸 48:44.46
- 6 石井 愛 花園高校 48:44.49



A-E優勝の向川



A-M優勝の松井



A-F優勝の豊岡(先頭)



A-U優勝の角



A-J優勝の大中

(財)日本自転車競技連盟 競技規則集 改訂事項一覧表(抜粋)

条 項	2006年版	2007年版																																							
第2章 ライセンス(登録証)																																									
第6条 1.	(競技者) 競技者のカテゴリ(区分) (1) 6, 5, (2) 身体障害を持つ競技者	(競技者) 競技者のカテゴリ(区分) (1) 6, 5, (2) 障害を持つ競技者【3ヶ所変更】																																							
第3章 競技者の装備																																									
第8条 7.	(装備) (3) ナショナル・ジャージ (4) 国内選手権保持者のジャージ:	(装備) (3) ナショナル・ジャージ ナショナル・ジャージとそのデザインは本連盟固有の財産である。【追加】 (4) 国内選手権保持者のジャージ: 国内選手権保持者のジャージとそのデザインは本連盟固有の財産である。【追加】																																							
第13条	(ゼッケン(ナンバー・カード)の枚数)	(ゼッケン(ナンバー・カード)の枚数)																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>ボディ ナンバー</th> <th>フレーム ナンバー</th> <th>肩番号</th> <th>ハンドル バー番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">マウンテン バイク</td> <td>OX-MX-PP- SR-SC-MD</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>TR-TT-DH- 4X-DL-DS</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			ボディ ナンバー	フレーム ナンバー	肩番号	ハンドル バー番号	マウンテン バイク	OX-MX-PP- SR-SC-MD	2			1	TR-TT-DH- 4X-DL-DS	1			1						<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>ボディ ナンバー</th> <th>フレーム ナンバー</th> <th>肩番号</th> <th>ハンドル バー番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">マウンテン バイク</td> <td>全種目</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			ボディ ナンバー	フレーム ナンバー	肩番号	ハンドル バー番号	マウンテン バイク	全種目	1			1					
		ボディ ナンバー	フレーム ナンバー	肩番号	ハンドル バー番号																																				
マウンテン バイク	OX-MX-PP- SR-SC-MD	2			1																																				
	TR-TT-DH- 4X-DL-DS	1			1																																				
		ボディ ナンバー	フレーム ナンバー	肩番号	ハンドル バー番号																																				
マウンテン バイク	全種目	1			1																																				
第6章 自転車競技場																																									
第21条 1.	(自転車競技場) (3) 表示 走行方向の標示 2. スプリンター・ライン 赤色線を“スプリンター・ライン”としてトラックの内側の端から90cmに引く。 この90cmは赤色の線の外側の縁までを測定する。 3. ステイヤー・ライン 青色線を“ステイヤー・ライン”として、トラックの内側の端からトラックの全幅の1/3あるいは2.5mの位置(いずれか大きい方)に引く。 この距離は青色線の外側の縁までを測定する。	(自転車競技場) (3) 表示 走行方向の標示 2. スプリンター・ライン 赤色線を“スプリンター・ライン”としてトラックの内側の端から85cmに引く。 この85cmは赤色の線の内側の縁までを測定する。 3. ステイヤー・ライン 青色線を“ステイヤー・ライン”として、トラックの内側の端からトラックの全幅の1/3あるいは2.45mの位置(いずれか大きい方)に引く。 この距離は青色線の内側の縁までを測定する。																																							
第8章 競技種目																																									
第27条 2.	(トラック・レース種目) 世界選手権種目 男子 【エリート】(U23も含む) 女子 【エリート】	(トラック・レース種目) 世界選手権種目 男子 【エリート】(U23も含む) オムニアム【追加】 女子 【エリート】 チーム・スプリント【追加】																																							
第30条 1. 2.	(マウンテンバイク種目) オリンピック競技大会種目 男子 クロス・カンントリー(XC) 女子 クロス・カンントリー(XC) 世界選手権種目 男子 クロス・カンントリー(XC) ダウン・ヒル(DH) フォア・クロス(4X) 女子 クロス・カンントリー(XC) ダウン・ヒル(DH) フォア・クロス(4X)	(マウンテンバイク種目) オリンピック競技大会種目 男子 オリンピック・クロス・カンントリー(XCO) 女子 オリンピック・クロス・カンントリー(XCO) 世界選手権種目 世界選手権は次の5種目で構成する: オリンピック・クロス・カンントリー(XCO) マラソン・クロス・カンントリー(XCM) チーム・リレー(XCR) インディヴィデュアル・ダウン・ヒル(DHI) フォア・クロス(4X) 世界選手権タイトルは下記のカテゴリに対して与えられる:																																							

		<p><u>XCO</u> エリート男子(23歳以上) 男子U23(19～22歳) エリート女子(19歳以上) 女子U23(19～22歳) ジュニア男子(17～18歳) ジュニア女子(17～18歳)</p> <p><u>XCM</u> 男子(19歳以上) 女子(19歳以上)</p> <p><u>DHI</u> エリート男子(19歳以上) エリート女子(19歳以上) ジュニア男子(17～18歳) ジュニア女子(17～18歳)</p> <p><u>4X</u> 男子(17歳以上) 女子(17歳以上)</p> <p><u>XCR</u> チーム(17歳以上)</p>
第11章 競技大会の開催および準備		
第41条	(競技大会・競技日程)	(競技大会・競技日程)
1.	競技日程は、下記の種目について作成する。 身体障害者のための自転車競技	競技日程は、下記の種目について作成する。 障害者のための自転車競技
2.	(競技日程の申請と作成の期日) ただし、原則としてロード・レースの国内選手権大会の日として第26週末、シクロクロスの国内選手権大会の日として第2日曜の週末、マウンテンバイクの国内選手権大会の日として第29週末を留保する。	(競技日程の申請と作成の期日) ただし、原則としてロード・レースの国内選手権大会の日として第26週末、シクロクロスの国内選手権大会の日としてUCI理事会が認可した日、マウンテンバイクの国内選手権大会の日として第29週末を留保する。
第12章 大会要項と参加手続き		
第52条	(大会要項と参加手続き)	(大会要項と参加手続き)
1.	(5) 競技会場 ロード・レース ・レースまたはステージのコース説明・高低差、距離、補給所、適合する場合、サーキット ・コースにおける障害物(トンネル 踏切 注意箇所等) ・詳細な道程と予想タイム・テーブル ・中間スプリント、山岳賞と各種ボーナス ・最終3km区間の地図と高低差 ・スタートとフィニッシュの正確な位置 ・負傷者受け入れのために主催者より連絡した、医療施設リスト	(5) 競技会場 ロード・レース ・レースまたはステージのコース説明・高低差(必要な場合)、距離、補給所、適合する場合、サーキット ・コースにおける障害物(トンネル 踏切 注意箇所等) ・詳細な道程と予想タイム・テーブル ・中間スプリント、山岳賞と各種ボーナス ・最終3km区間の地図と高低差(必要な場合) ・スタートとフィニッシュの正確な位置 ・負傷者受け入れのために主催者より連絡した、医療施設リスト
第14章 トラック・レース規則		
第70条	(ポイント・レース)	(ポイント・レース)
15.	最終5周以内で認められる事故に遭った競技者は、競技に復帰することができないが、事故前に獲得または失った周回および得点に基づいた成績を与える。その他の完走しなかった競技者は最終成績に含めない。	最終5周以内で認められる事故に遭ったが、最後の1kmの間にトラックに戻るができなかった競技者は、事故前に獲得または失った周回および得点に基づいた成績を与える。その他の完走しなかった競技者は最終成績に含めない。
第71条	(ケイリン)	(ケイリン)
10.	日本国内の競技において、ペーサがトラックを離れる前に事故が起きた場合、再スタートを行う。	[削除]
第72条	(チーム・スプリント)	(チーム・スプリント)
8.	チーム・スプリントは3名で構成する2チームが同時に、各競技者が1周ずつ先頭を走り、トラックを3周して行う一連のレースである。 走路の内側に位置する競技者が、最初の周回は先頭を走る。その後、この競技者は外側に移動し、相手チームを妨害しないようにして走路外に出る。2番目の競技者も、次の周回の先頭を走り、同様にして走路外に出る。	チーム・スプリントは対戦する2チームが同時に、各競技者が1周ずつ先頭を走るレースである。 男子競技は3競技者によるチームでトラックを3周する。 女子競技は2競技者によるチームでトラックを2周する。 走路の内側に位置する競技者が、最初の周回は先頭を走る。その後、この競技者は外側に移動し、相手チームを妨害しないようにして走路外に出る。男子においては2番目の競技者も、次の周回の先頭を走り、同様にして走路外に出る。
第83条	(6日間レース)	(6日間レース)
18.		エリミネーション・レースにおける獲得周回数は総合順位に算入しない。[追加]

第23章 医事検査		
第99条	(医事検査) アンチドーピング検査の運営 (管理一般) (1) 検査はアンチドーピング検査官と医事検査官により実施しなければならない。 (8) 競技外検査のために、JCFは、医事検査官を指名しなければならない。必要な場合、アンチドーピング検査官は医事検査官および/または看護師を現場で指名できる。	(医事検査) アンチドーピング検査の運営 (管理一般) (1) 第99条8.(8)、12.(8)およびUCI規則に規定される場合を除き、検査はアンチドーピング検査官と医事検査官により実施しなければならない。 (8) 競技外検査のために、医事検査官を指名する必要はなく、医事検査官に委託される仕事と責任はアンチドーピング検査官により遂行されなければならない。
付表2-1:ロード・レースの区分(クラス)		
1.	国際(世界+大陸)競技日程 - 混成チームは、既にその競技への参加を、契約していないチームの競技者からのみ構成される。競技者は彼らの通常のスポンサーの広告を表示した同一のジャージを着用しなければならない。 - U23 競技者はクラスMEの競技に参加できる。クラスMUはU23 競技者のみに限定される。	国際(世界+大陸)競技日程 ME 2 (Nカップ) (1.2+2.2) 大陸 - ナショナル・チーム - 混成チーム [追加] - 混成チームは、既にその競技への参加を、参加資格がありながら契約していないチームの競技者からのみ構成される。競技者は彼らの通常のスポンサーの広告を表示した同一のジャージを着用しなければならない。 - 男子U23競技者はクラスMEの競技に参加できる。クラスMUは男子U23競技者のみに限定される。"Nカップ"とクラス分けされる競技は、UCIプロチームに属する競技者を含み、19-22歳の競技者に限定される。
付表3:ペナルティ表		
15.	過失により経路を有利に近道する。 除外	過失により経路を有利に近道する。 タイムトライアル:ペナルティ 20秒 ステージ・レース:集団の最下位に降格 ワンデイ・レース:除外
	除外	タイムトライアル:ペナルティ 20秒 ステージ・レース:集団の最下位に降格 ワンデイ・レース:除外
付表5-1:自転車競技場および施設に関する基準要項		
8-3.	競走路の内縁から90cmの位置にスプリンター・ラインを引く。この線は幅5cmとし、その基準位置はその外側の縁とする。スプリンター・ラインの色は、赤色とする。	競走路の内縁から85cmの位置にスプリンター・ラインを引く。この線は幅5cmとし、その基準位置はその内側の縁とする。スプリンター・ラインの色は、赤色とする。
8-4.	競走路の内縁から1/3位置にステアー・ラインを引く。ただし、1/3の位置が内側から2.5m以下となる場合は、2.5mの位置にラインを引く。この線は幅5cmとし、その基準位置はその外側の縁とする。ステアー・ラインの色は、青色とする。	競走路の内縁から1/3位置にステアー・ラインを引く。ただし、1/3の位置が内側から2.5m以下となる場合は、2.45mの位置にラインを引く。この線は幅5cmとし、その基準位置はその内側の縁とする。ステアー・ラインの色は、青色とする。
付表5-2:ロード・レースのコースに関する基準要項		
3-9.		フィニッシュ・ライン後方のカメラマン区域は道路幅の40%を超えてはならない。カメラマンはラインよりの最少距離15mより離れて位置しなければならない。この距離は、大会の性格を基準に、チーフ・コミセールとカメラマン代表とともに主催者により決定される。[追加]
登録者規程		
第3条	(プロフェッショナル競技者) (2) UCI規則に定めるトレード・チーム/IIと契約した者。	(プロフェッショナル競技者) (2) UCI登録チームとプロフェッショナル競技者として契約した者。
公認審判員規程		
第10条	(登録の取消) 本人の年齢が満65歳になったとき。	(登録の取消) 本人の年齢が満70歳になったとき。

学連70周年記念・明治神宮外苑自転車クリテリウム大会

54年ぶりの都心部スタート・フィニッシュのロードレース!

1936年(昭和11年)に早稲田大学、慶應義塾大学、立教大学、明治大学、東京商科大学(現一橋大学)の5大学によって組織された日本学生自転車競技連盟(学連)は、2006年度で創立70周年を迎え、それを記念する行事が都内で開催された。

まずは1月27日(土)に東京代々木・国立オリンピック記念青少年総合センターで、記念式典が催された。

挨拶・祝辞のあと70周年の功労者表彰、特別表彰が受賞者に授与され、日本自転車振興会会長・下重暁子氏、及び(社)全国大学体育連合会長・奥島隆康氏の記念講演が行われた。記念式典の後は会場を移し、祝賀会が盛況の内に開催された。

その翌週の2月4日(日)には、記念行事の目玉ともいべきクリテリウム大会が、明治神宮外苑で開催された。

「日本学生自転車競技連盟創立70周年記念行事・明治神宮外苑自転車クリテリウム大会」と名称された本大会は、

神宮外苑聖徳記念絵画館前をスタート・フィニッシュとする1周1.5kmの公道コースで行われた。学連として都心部サーキットでの公道ロードレースの

開催は1953年、第9回インカレロード(皇居内堀25周160km)以来54年ぶりであり、現在の交通状況を考えると歴史的な試みといって良いであろう。本大会を実現させた学連の大会実行委員会には敬意を、そして開催に多大なる協



力を頂いた協賛企業各社並びに、関係各庁、関連機関には謝意を表したい。

レースは70周年記念ランと称した学連選手OBと小学生によるパレード走行の他に、女子を含む5クラスが開催され、最高峰のAグループは明治大学の湯浅徹が制した。大会は大きな事故も無く成功裡に終了し、各方面からの評価も概ね好評であった。

なお今回の明治神宮大会は特別ラウンドという扱いであったが、'06年4月の長野県穂高ラウンドから始まり、12月の昭和記念公園ラウンドを含む全8戦で行われた全日本学生クリテリウムシリーズは、3月11日に埼玉県喜望浦町で最終戦が行われ、総合優勝は辻善光(立命館大学)が44ポイントで獲得した。

2007年度のシリーズは全12戦が予定されている。(村田 隆宣)

[競技結果]

明治神宮外苑自転車クリテリウム大会

(2007/2/4 東京・明治神宮外苑)

女子(1.5km×12周=18km)

- 1 和田見里美 鳥取 中京大学
- 2 石井 寛子 埼玉 明治大学
- 3 小淵 千恵 群馬 順天堂大学

男子大学生A(1.5km×16周=24km)

- 1 湯浅 徹 千葉 明治大学
- 2 角 令央奈 兵庫 鹿屋体育大学
- 3 島田 真琴 東京 法政大学

男子大学生Aグループ大学対抗結果

- 1 明治大学
- 2 鹿屋体育大学
- 3 法政大学

1936年の学連創立記念大会開会式
陸軍戸山学校運動場



神宮外苑クリテリウムの開会式
旗を持つのが一橋大を除く創立4大学
挨拶は橋本聖子大会名誉会長

2007年オーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバル

男子スプリント(深谷)とチームスプリントで優勝!



会場は屋内板張り250mトラック。Dunc Gray Velodromeというシドニー五輪で使用したトラックである。

女子スプリントには近藤が出場。予選は今ひとつスピードに乗れず13秒181で9位。1回戦、先行できず敗退。敗者復活戦では作戦通り先行し1位となった。2回戦、1位通過の選手と対戦。力の差は0.8秒あり、積極的に主導権を取り一矢報いようとするが及ばず、敗退。

男子スプリントは深谷と雨谷が出場。深谷は11秒058の3位で予選通過、1回戦はなんなく勝利。2回戦、相手選手とのタイム差は0.2秒。相手の技術もなかなか高く3本目までもつれ込んだ。3本目、深谷は絶妙の先行を見せ勝利を収めた。翌日の準決勝、1kmの優勝者との対戦。予選タイムは相手が上である。お互いに先行を狙うレースとなるが1本目うまく先行し先取。2本目は相手に先行され、まくりに戻る。相手も合わせて踏み上げるが見事に差しきり勝利。決勝はオーストラリア選手との対戦。1本目は気負いからか、今まで通りの走りができなかった。思い切った後方からの仕掛けができず、まくり不発に終わる。2本目、またも後ろから攻めることになったが、ラスト1周半、今度は迷うことなく先行した。ゴール前詰め寄られるが逃げ切った。2本目を終えた後、相手は疲労(体調不良)のため3コーナー下で倒れ込んでしまった。回復が見込めないため棄権となる。少しあけない幕切れだったが優勝が決定し

た。いくつもの接戦を制しての優勝は非常に価値のあるものだった。雨谷は11秒270の8位で予選通過。1回戦は力よりもテクニックの差が出て敗退。敗者復活戦は難なく勝ち上がり、2回戦で1位通過の選手と対戦。相手はただ1人の10秒台で技術も一枚上手である。1本目はあっさり取られてしまったが、2本目はスローペースからのダッシュ勝負に持ち込む。見事に作戦が決まり取り返す。しかし3本目、またも相手にうまく先行され敗退。5-8位決定戦で6位となった。

個人追抜競走。女子は柘原が出場。序盤は予定通りのラップを刻んだが中盤から遅れ、結果2分40秒934の11位。男子は高橋、長島が出場。高橋は3分40秒547で16位、長島は3分48秒180で23位。この種目、男女とも日本選手と世界との差は非常に大きい。国内のレースと違いスピードの勝負、一進一退の攻防が見られ、見ていて非常に面白い。

スクラッチレース。女子は柘原が、男子は雨谷、磯田が出場。いずれも決勝進出を果たす。男子決

勝では1周16秒前後のハイペースの展開に翻弄された。しかし日本選手も一瞬のスピードは決して劣っていないので勝負所を見極め、うまい位置取りからゴール勝負にもちこむことが不可欠である。

500mタイムトライアルは近藤が39秒838で10位。1kmタイムトライアルには長島と山下が出場。長島は1分09秒100で11位、山下は1分09秒694で13位だった。1kmの1位タイムは1分05秒427で大会新。それぞれ目標タイムに及ばず残念であった。外国選手はスタートの加速よりも後半の伸びを重視している。

チームスプリントAチームは磯田、雨谷、深谷の3名。予選48秒196で1位。決勝は48秒124で優勝。中盤まで相手にリードされる苦しい展開だったが2番手から3番手にかけて盛り返し0.144秒差の逆転勝利。Bチームは山下、佐々木、長島の3名。予選48秒375で4位。3-4位決定戦でも4位であった。

ケイリンには山下、深谷、佐々木の3名が出場。山下は1回戦、準決勝とも残り1周半から先行し、逃げ切りをきめる積極的な走りで決勝進出。決勝は後方からのレースとなり、先行しようとするが合わされずると後退、6位となった。深谷は前日のスプリントと当日のチームスプリントの影響ですでに疲労困憊。1回戦はなんとか3位に入り突破するも、準決勝は追走いっぱいの状態。5着に沈んだ。佐々木は1回戦、後方に追いやられ、全く前に出ること



ケリーに祝福されるチームスプリントの日本チーム



ケイリン準決勝

ができず5着に終わる。ケイリンではスタート後の位置取りが特に重要。前方の位置取りができればかなり有利である。逆に後方からは先行策を取るにも、追い込みにもまわるも相当力がないと決まらない。

ポイントレースには高橋、山國が登場。山國は予選敗退。高橋は位置取りに苦勞しながらも2点を取り8位で予選通過。決勝はさらにハイペースの展開となり、後方に追いやられる展開。ペースのゆるんだ瞬間に飛び出しを試みるも逃がしてもらえず、中盤で力尽き棄権した。優勝はニュージーランド選手。オーストラリアチャンピオンに対し、ニュージーランドのチームプレイが勝利した。非常に早いペースで、どんどん

逃げを狙う展開など日本のレースしか知らない選手が始めて走って通用するレースではないと感じた。

[総括]

250mトラックでのレースは、日本と違い勝負どころ(もがくポイント)が早く訪れるし、また日本のようにゴール直前の差は成功しない。積極的に先行をとりに行くレース展開となる。日本のレースと全く違う考え方、走り方が必要だということを実際走った選手たちは感じたと思う。

最後に、本事業の実施にかかわり多大なるご協力をいただいた関係の方々には心より感謝申し上げます。

(百々 敦史)

2007年オーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバル
日本代表選手団

大会名	2007年オーストラリア・ユースオリンピック・フェスティバル
開催場所	オーストラリア・シドニー バンクスタウン・ダングレイ自転車競技場(250m)
大会期間	2007年1月18日～21日
派遣期間	2007年1月15日～22日
代表選手団	
監督	百々 敦史(JCFジュニア育成部会支援スタッフ)
コーチ	中田 将次(JCFジュニア育成部会支援スタッフ) 堤谷 孝章(JCFジュニア育成部会支援スタッフ)
選手	
男子	深谷 智広(愛知・桜丘高校) 長島 大介(栃木・作新学院高校) 雨谷 一樹(栃木・作新学院高校) 高橋 翔太(岐阜・岐南工業高校) 磯田 旭(栃木・作新学院高校) 山下 一輝(山口・誠英高等学校) 山國 涉(熊本・熊本市立千原台高校) 佐々木 海(宮城・仙台商業高校)
女子	近藤 美子(愛知・愛知工業大学名電高校) 柁原 彩(熊本・熊本市立千原台高校)

[競技結果]

男子スプリント			
1	深谷 智広	JPN	
2	Byron Davis	QLD	
3	Eddie Dawkins	NZL	
6	雨谷 一樹	JPN	
男子1kmタイムトライアル			
1	Eddie Dawkins	NZL	1:05.427
2	Richard Lang	NZL	1:07.311
3	Luke Davison	NZL	1:07.313
11	長島 大介	JPN	1:09.100
13	山下 一輝	JPN	1:09.694
男子ケイリン			
1	Jason Holloway	WA	
2	Peter Johnstone	VIC	
3	Eddie Dawkins	NZL	
6	山下 一輝	JPN	
	深谷 智広	JPN	1/2F敗退
	佐々木 海	JPN	予選敗退
男子3km個人追抜競走			
1	Jason Christie	NZL	3:28.102
2	Richard Lang	NSW	3:34.456
3	Shane Archbold	NZL	3:27.795
16	高橋 翔太	JPN	3:40.547
23	長島 大介	JPN	3:48.180
男子スクラッチ(10km)			
1	Peter Johnstone	VIC	
2	Sam Steele	NZL	
3	Thomas Robinson	TAS	
5	雨谷 一樹	JPN	
14	磯田 旭	JPN	
男子ポイントレース(25km)			
1	Shane Archbold	NZL	26p
2	Richard Lang	NSW	20p
3	Thomas Robinson	TAS	15p
10	高橋 翔太	JPN	2p
	山國 涉	JPN	予選敗退
男子チームスプリント			
1	日本1 磯田・深谷・雨谷		48.124
2	オーストラリア1		48.268
2	オーストラリア2		48.338
4	日本2 山下・長島・佐々木		49.528
女子500mタイムトライアル			
1	Josephine Butler	WA	36.380
2	Ting Ying HUANG	TPE	36.798
3	Annette Edmondson	SA	37.471
10	近藤 美子	JPN	39.838
女子スプリント			
1	Annette Edmondson	SA	
2	Ting Ying HUANG	TPE	
3	Josephine Butler	WA	
7	近藤 美子	JPN	
女子2km個人追抜競走			
1	Josephine Tomic	WA	2:29.768
2	Ting Ying HUANG	TPE	2:32.874
3	Lisa Friend	VIC	2:35.193
11	柁原 彩	JPN	2:40.934
女子スクラッチ(7.5km)			
1	Josephine Tomic	WA	
2	Courtney Le Lay	QLD	
3	Lisa Friend	VIC	
6	柁原 彩	JPN	

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

2006年ワールド・チャンピオンズ (UCI 2.2)
(2006/12/25-30 韓国・ソウル)

個人総合成績

1	KHATUNTSEV Alexander	ODM	12:10:10
2	TANG Wang Yip	HKG	12:10:52
3	MA, Haijun	CHN	12:11:12
12	飯島 誠	JPN	12:12:04
21	村山 規英	JPN	12:12:59
25	小豆畑郁也	JPN	12:13:17
32	角 令央奈	JPN	12:13:38
	太田 貴明	JPN	DNF
	白川 巧	JPN	DNF

団体総合成績

1	Omnibike-Dynamo Moscow	36:32:48
2	Pocari Sweat Hong Kong	36:34:23
3	Glud & Mastrand Horsens	36:35:14
7	Japan National Team	36:37:37

2007女子ロード・ワールド・カップ 第1戦
(2007/3/3 オーストラリア・シドニー)

個人ロードレース (120km)

1	Nicole Cooke	GBR	Raleigh	3:07:42
2	Oenone Wood	AUS	T-Mobile Women	
3	Nikki Egged	AUS	National Team	
15	沖 美穂	JPN	Menikini Gysko+0:06	

2007年トラック世界自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名	2007年トラック世界自転車競技選手権大会
開催場所	スペイン・パルマ(マジョルカ島)
大会期間	2007年3月29日～4月1日
派遣期間	第1グループ:2007年3月22日～4月3日 第2グループ:2007年3月26日～4月3日
代表選手団	
監督	フレデリック・マニエ(JCFナショナル・ディレクター)
コーチ	阿部 良二(JCF強化コーチ)
随員	小川 隆(JPCA)
メニック	森 昭雄・鬼原 積(JCF強化スタッフ)
マッサー	柳 浩史・石田 宗男(JCF強化スタッフ)
総務	門脇 正幸(JPCA) 山田 克彦・渡邊 三郎(JCF選手強化部)
選手	伏見 俊昭(JPCA・福島)・井上 昌己(JPCA・長崎) 中川誠一郎(JPCA・熊本)・成田 和也(JPCA・福島) 渡邊 一成(JPCA・福島)・永井 清史(JPCA・岐阜) 北津留 翼(JPCA・福岡) 飯島 誠(JPCA・チームプリヂストン・アンカー) 盛 一太(愛知・愛三工業レーシングチーム)

インフォメーション コーナー

日本スポーツ賞・競技団体別最優秀賞に北津留が選ばれる

読売新聞社主催の2006年第56回日本スポーツ賞の表彰式が1月29日東京都内のホテルで行われ、競技団体別最優秀賞に北津留翼・21歳(JPCA・福岡)が選ばれた。北津留選手は昨年12月ドーハで行われたアジア競技大会のスプリントで金メダルを獲得。また、9月に行われたアジア選手権大会のスプリントでも金メダル(2年連続)を獲得し活躍した。なお大賞はフィギュアスケート女子の荒川静香が受賞した。



障害者自転車競技の管理がIPCからUCIに移管

UCI公式サイトによると、2007年2月7日にUCI(国際自転車競技連合)とIPC(国際パラリンピック委員会)が共同報道発表を行い、IPC(国際パラリンピック委員会)からUCI(国際自転車競技連合)に障害者自転車競技の管理を移管する協定書に双方が署名した。

登録者のアンチ・ドーピング検査規則に係る処分について

標記について、本連盟アンチドーピング委員会は、競技者資格に関し、UCIおよびJCF規則に基づき検討した結果、下記の処分を課すことを決定しましたので通知いたします。

記

- 事由 竹下 真二(福井)は、平成18年10月22日、栃木県で行われた2006年ジャパン・カップロードレース大会におけるアンチドーピング検査の際、検査対象となったにもかかわらず、自己の責任において対象者の確認をせず、結果として検査室に出頭しなかった。
栗山 隆(北海道)は、平成18年12月3日、北海道で行われた2006年全日本シクロクロス大会におけるアンチドーピング検査の際、検査対象となったにもかかわらず、自己の責任において対象者の確認をせず、結果として検査室に出頭しなかった。
- 決定 当該者に対して警告を与え、罰金5,000円を科す。
本連盟に登録する競技者は、登録者規程第1条にあるように、競技規則をはじめ諸規程およびUCI規則を順守しなければならない。特にアンチドーピングについては、本連盟登録者規程第2条に「競技に際して、特にドーピングまたは暴力行為などによりフェアプレーの精神に明らかに違反してはならない。」とあるように、厳しく定められている。アンチドーピング検査規則においては、検査への不出頭がドーピング行為と同等とみなされる重大な違反行為である。ここに厳重な警告を与え、罰金を科すことにより、本人の猛省を促す。
今後、競技に参加するに当たっては諸規則を理解の上、十分に注意して臨むように指導する。
- 適用条項 UCIアンチドーピング検査規則第72条および132条、JCF競技規則第99条10.(11).(18).(19)

2007年 UCIロード登録チーム www.uci.ch

UCIプロフェッショナル・コンチネンタル・チーム

スキル・シマノ / SKIL-SHIMANO (SKS) - NED www.skilcyclingteam.com

Manager: M. SCHEPPINK A.J. Ass. Manager: M. SPEKENBRINK I.G.L.H

Team Manager: 坂東 晃・今西 尚志・HOEKSTRA P.・M. KEMNA Rudi

Riders: 阿部 良之・土井 雪広・廣瀬 佳正・狩野 智也・野寺 秀徳・大内 薫・品川 真寛
辻 貴光・山本 雅道

DEN BAKKER Maarten・GOESINNEN Floris・ROOIJAKKERS Piet・TJALLINGII Maarten

VAN HUMMEL Kenny Robert・VIERHOUTEN Aart・TIMMER Albert (以上 NED)

MARTENS Paul・MESCHENMOSER Christoph・MULLER Christian (以上 GER)

BACQUET Fabien・DEROO David・LHOTELLERIE Clement (以上 FRA)

LONG Jin・CHENG Ji・XU Fang (以上 CHN)

UCIコンチネンタル・チーム

NIPPO コーポレーション・梅丹本舗・Equipe Asada

/ NIPPO CORPORATION-MEITAN HOMPO CO.LTD-ASADA (NIP) - JPN www.cyclisme-japon.net

Representative of the team: 浅田 顕 Manager: 浅田 顕・大門 宏

Riders: 新城 幸也・福島 康司・福島 晋一・井上 和郎・宮澤 崇史・中島 康晴・岡崎 和也
佐野 淳也・清水 都貴・清水 良行・WIESIAK Mariusz (POL)チーム・ミヤタ / TEAM MIYATA (MYT) - JPN www.team-miyata.com

Representative of the team: 畑島 直人 Manager: 栗村 修

Riders: 柿沼 章・鈴木 真理・高野 淳・中村 誠・増田 成幸・鈴木 謙・山下 貴宏
福田 真平マトリックス パワータグ / MATRIX POWERTAG (MTR) - JPN www.matrix-inc.co.jp

Representative of the team: 安原 昌弘 Manager: 安原 昌弘

Riders: 三船 雅彦・橋川 健・広瀬 学・佐野 友哉・向川 尚樹・辻 善光・森 真博
日置 大介・松村 光浩・舟木 誠愛三工業レーシングチーム / AISAN RACING TEAM (AIS) - JPN www.aisan.net

Representative of the team: 佐々木 壽 Manager: 田中 光輝

Riders: 廣瀬 敏・別府 匠・西谷 泰治・綾部 勇成・盛 一大・石田 哲也・鈴木 謙一
秋山 英也

未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANOwww.shimano.com

XBC001-A

広報委員会からのお知らせ

広報誌「シクリスムエコー」定期購読のご案内

平成14年度より「シクリスムエコー」個別郵送ご希望の方には、郵送料の一部をご負担いただいております。
平成19年度につきましても、ご負担をお願いすることになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。
なお19年度の発行回数は10回を予定しております。また、勝手ながら年度途中でのお申し込みにつきましても、4月号からの1年分とさせていただきます。

平成19年度 1,200円(1年分)

同封の郵便振替用紙(振込手数料JCF負担)で、お近くの郵便局よりお申し込みください。
各加盟団体(都道府県車連)事務局や一部自転車関連施設にもこれまで通り送付いたしますので、ご来訪できる方はご利用ください。
また、これまで通り、JCFホームページにも掲載いたしますのでご覧ください。< <http://www.jcf.or.jp> >
なお、JCF維持会員(個人1万円・法人5万円/年間)の皆様へは無料でお送りいたします。

2007年 JCF競技規則集 完成!

(財)日本自転車競技連盟 2007年度版の競技規則集が発行されました。
ご購入希望のお問い合わせは、各加盟団体へお問い合わせください。

加盟団体事務局変更のお知らせ

全国高体連自転車競技専門部 4月1日より)

〒919-0461 福井県坂井市春江町江留上緑8-1 春江工業高校内
中梶様方 TEL: 0776-51-0178 FAX: 0776-51-7066

鳥取県自転車競技連盟 4月2日より)

〒682-0925 鳥取県倉吉市秋喜20 倉吉西高校内 河田様方
TEL: 0858-28-1811 FAX: 0858-28-1812

連盟の動き (1月下旬～3月中旬)

1月13日	2006-2007トラックW杯第3戦日本代表選手団出発	於：アメリカ・ロサンゼルス(帰国23日)
15日	オーストラリア・ユース・オリンピックフェスティバル選手団出発	於：オーストラリア・シドニー(帰国22日)
22日	平成18年度第3回常務理事会 兼 選手強化本部会	於：東京・日本自転車会館
24日	2007年シクロクロス世界選手権大会日本代表選手団出発	於：ベルギー・ホーホレーデヒッツ(帰国30日)
2月7日	平成18年度第6回選手強化委員会 第3回医科学部会合同会議	於：東京・日本自転車会館
	平成18年度第1回アンチドーピング委員会	於：東京・日本自転車会館
17日	平成18年度全国自転車競技指導者研修会	於：千葉・海外職業訓練協会
17日	2006-2007トラックW杯第4戦日本代表選手団出発	於：イギリス・マンチェスター(帰国27日)
20日	2007インターナショナル・ケイリン日本代表選手団出発	於：イギリス・マンチェスター(帰国27日)
3月1日	平成18年度第3回総務委員会	於：東京・日本自転車会館
3日	2007年第1回シクロクロス小委員会	於：東京・日本自転車会館
5日	2007年第1回ロード競技部会	於：東京・日本自転車会館
9日	平成18年度第4回常務理事会 兼 選手強化本部会 平成18年度第1回資格審査委員会	於：東京・日本自転車会館
15日	平成18年度第2回広報委員会・広報部会合同会議	於：東京・日本自転車会館
16日	平成18年度第4回理事会	於：東京・日本自転車会館

JCF協賛スポンサー



シクリスムエコー No.137 2007年3月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>